

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100124		
法人名	有限会社トモメディカルサービス		
事業所名	むつみの森 グループホームすみれ 2F パンジー		
所在地	長崎県長崎市長浦町2584番地		
自己評価作成日	平成27年11月11日	評価結果市町村受理日	平成28年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成27年12月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲が山と海に囲まれており眺望が良く、車の往来も少ない場所にあり落ち着いた生活を送れる環境にあります。入居者の要望をできる限り叶える為の外出支援に力を入れております。特に、施設の理念の1つでもある、「地域行事への参加」として、自治会に加入しており合同での夏祭りの開催や事業所へお誘いし発表の場としていただき交流を図っております。又、本人様の地元地域へのサロンへの参加を支援したり、保育園・小学校との交流を深めることで地域に密着した開かれた事業所を目指しております。医療機関が設立した、事業所でもあり医療面での連携も図っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の一部「地域行事への参加や住民の訪問を歓迎し交流を図る」を軸に、地域密着型サービスに真摯に取り組んでいる。利用者も地域住民として、自治会及び住民との交流がある。特に有事に関して、運営推進会議や訓練参加を通じて、有意義な意見交換が行われている。事業所も意見に訓練に取り入れ、安全対策に厚みが増している。運営推進会議では、認知症サポーター等の参加があり課題解決と共に、地域との関係づくりに繋がっている。事業所では、内部研修を通して職員が介護のプロとしての意識を高め実践に活かし、ケアマネージャーが回想法を取り入れ、利用者の日常の変化を見落とさないよう支援に努めている。個別記録では、支援の実践状況と介護支援目標の進行状況がわかりやすく、且つ職員もその意義を理解している。地域・事業所・家族の三つ巴で利用者を温かく見守り、その人らしい暮らしとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との関係性を含めた5つの理念を作成して掲示しており、毎朝朝礼時に出勤職員全員で復唱して一人一人の意識づけ、共有がなされている。	5つの理念の1つに「地域行事への参加や住民の訪問を歓迎し交流を図る」がある。事業所が地域の中で孤立してはならないとの考えから、職員は利用者と共に積極的に地域との交流を行っている。また、「介護レベルの向上を図る」ため、勉強会を開催し、職員の質の向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に加入し、会合の場としても使用してもらったりしている。また、行事の手伝い・準備などにもご近所の方が来て下さったりしている。また、入居者様が地域の清掃活動に参加して頂き、地区の一員として活動して頂いている。	社社の清掃活動に職員と利用者が一緒に参加している。夏祭りや敬老会等には地域住民やボランティアの協力があり、出し物等披露する場となっている。小学生や保育園児の訪問もある。また、万に備え、自治会、駐在所と連携するなど、地域の一員として認知されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの資格を持つ職員が認知症サポーター養成講座を開催し、地域住民の認知症に対する正しい知識を持って頂く啓発活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月毎に年間6回の開催をしている。ご家族代表・自治会長や民生委員・認知症サポートリーダー・小学校の先生や警察官にも参加をお願いしており、皆様から頂いたご意見をサービスにつなげられるよう努めている。	年6回、会議を開催している。利用者家族や地域代表、行政職員や認知症サポーター他、毎回多方面から参加があり、様々な議題について話し合っている。花見等の外出の際、見守りサポートを募ったり、地域ぐるみの見守り支援について話し合いが行われており、意見を活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の受け入れの他に、運営推進会議に行政側にも出席して頂き、サービス状況の報告等を行っている。また、グループホーム連絡協議会の研修においても、地域包括支援センターと合同で企画研修を行っている。	行政各担当者とは、利用者の状況を報告したり、運営上の不明な点を尋ねている。事故報告の際には随時報告している。また、年に一度、介護相談員の受け入れを行っており、利用者との会話の時間を設けている。県主催の介護職員定着促進事業の他、研修に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間の施設内勉強会として、身体拘束の内容を盛り込んでいることや、外部研修を通じて全職員が正しい理解を持てるよう努めている。玄関の施錠に限っては夜間のみ防犯上の理由で行っている。	外部研修を年1回、内部研修を年2回開催している。事例を挙げて身体拘束のみならず、言葉による拘束についても周知している。職員も互いを注意し合えるよう、正しい理解と自覚を持っている。日中の施錠はなく、利用者の行動は職員が見守りにて支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内勉強会や外部研修を通して、日々のケアを振り返る機会を設けている。職員同士が気付きあい互いに注意し合えるような環境になってきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者様もいる。勉強会等で権利擁護について触れる機会もあるが、活用までは至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時には疑問点の有無についてお聞きするようにしている。内容に改定があった場合は、家族会を開催し説明を行ったり、欠席者には文書を郵送し説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関に意見・要望箱を設けているが、活用はされていない。契約時には行政にも相談窓口があることを伝えている。また、運営推進会議にてのご家族様の意見は改善できるよう努めている。	利用開始時に、書面や口頭で相談窓口について説明している。ホーム便りの他、随時家族へ利用者の様子を伝えている。家族の訪問時は、居室で何でも話せる雰囲気づくりに努めている。また、家族会を開催し情報を共有している。ホーム便りの発行回数や介護保険について等、家族からの意見や提案をサービス向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアリーダーよりあがってくる意見や要望について、必要に応じ会議を開き検討の場を設けている。申し出により資格の取得支援も行っている。	毎月のミーティングや日々の申し送り時に職員は意見や提案を表す場がある。また、リーダー会議で職員の意見・提案を伝えている。個別支援の内容や車椅子対応体重計の購入等、職員の提案を反映している。また、職員の資格取得に向け、要望に応じ勉強会の開催やシフトの調整も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務態度や各種研修への参加意欲、資格の取得状況などによって、職員への評価が正当に行えるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度開催の施設内勉強会や、外部研修の案内を各ユニットに回覧として全職員が目を通せるようにしている。認知症介護実践者研修には毎年参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており、研修等により同業者との交流する機会やネットワーク作りを行えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報を踏まえ聴き取りを行う際は、本人に威圧感や冷たい感じを与えないようにしている。また、傾聴によりここで望む暮らしを知り、相づちや適切な表情等を心がけることにより困り事や要望への理解が伝わるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームでの生活の安定を望む家族が大方であり、不穏がひどくなったり入院した場合等の不安を抱えている。その気持ちを十分に話していただき、理解者としての立場が伝わるように努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所当初は、支援を必要とする困り事がホームの生活でどのように表れてくるか、また新たな課題が見えてくるかを把握する期間でもあること、その後に本人らしい生活を送れる計画の作成を行うことを説明している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力を活かし、洗濯物畳みであれば数名がテーブルに寄って畳んでくれたり、食器洗いが得意であれば度々お願いしたり、朝、居室のカーテンを開けることを日課としている方には、安全に続けてもらうために、家具の配置等話し合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日々の様子をお伝えしたり、電話等による連絡も行っている。行事には家族様にも参加頂いたりしている。季刊発行によるお便りを発行しており、近況報告もおこなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状を書いたり、時には電話などをして頂いたりしている。本人様の地元地域のサロン等にも出席しており関係が途切れないように努めている。	センター方式を用いながら、利用者の生活歴の情報を収集し、職員は情報を共有している。家族や友人の訪問、外出は自由である。年賀状や電話などで、馴染みの関係が繋がっている利用者もいる。認知症カフェに利用者と参加し、地域住民と交流しており、買い物や外出ドライブは、利用者にとって馴染み深い場所を優先している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間を職員が把握し、座席の位置などを調整し話しやすい雰囲気を作っている。また、孤立しがちな方は職員がその方の興味がある話題などを見つけ話相手になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居中の写真をアルバムにしてお渡ししている。契約終了後にも、その後のご様子を伺うためにお電話するようになっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向などどのような暮らしがしたいかをお聞きし、把握できるよう努めている。自分の思いを伝えることが困難な方には、その人の表情やなにげない言葉から推測し予測を立て満足してもらえるよう努力をしている	職員は利用者一人ひとりに寄り添い、会話しながら思いや意向の把握に努めている。朝食時間や入浴、着替え等本人が選択できるよう声掛けしている。思いを伝えることが困難な場合は、体の力の入り具合や表情から推測し検討したり、家族からの情報を得ている。把握した内容は介護日記に記録し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期の聴き取りや普段の会話から、本人の生活歴の中で大切にしていた習慣、趣味、地域とのつながり等を把握し、現在の心身の状態に合わせた継続の方法を検討している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	能動的な方については、変わらず日々の行いを継続しているかという事や、動きに介助を要する方にはご本人の好むことを共に体験でき、その時の表情、発する言葉を把握したかを記録に残し、職員間の情報の共有に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制で行ってきたモニタリングは、充実度を少しずつ増し、課題やサービス内容の妥当性や、実践力を上げる工夫と自覚について、活発な意見が出るようになってきている。ご家族にも伝え、意見をお聴きして、実践可能な計画作成に努めている	介護計画更新時に基本情報の再アセスメントを行い、毎月のモニタリングを基に、カンファレンスを実施し、サービス内容に満足するよう計画を作成している。実施状況が分かるよう介護日記の様式を変更しており、職員の介護計画を意識した支援に繋がっている。ただし、今後職員が計画作成に携えるような取組みが必要である。	これまで勉強会の開催や記録書式の見直しなどで、職員の意識が高まっている。職員が計画作成に順応できるような、仕組みや書式検討など取組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施状況が分かるようにケース記録を改良している。本人の状態や話された言葉、日中の様子などを記入し情報の共有ができるよう努めている。その情報をもとに、介護計画への作成に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	集団での外出等の計画だけでなく、一人ひとりのニーズに沿ったイベントが行えるようにしている。その際家族の状況により出来ない部分を補えるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校や幼稚園との交流、老人会やペーロン大会、鬼火焚き、神社の清掃等に参加の支援を行っている。育ってきた地域のサロンへの参加は、昔なじみとの触れ合いと記憶想起の大切な場として定着している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の聴き取りにて、かかりつけ医の選定について希望をお聴きしている。専門医受診が必要な時は主治医の助言を受けて、家族に相談している。受診は家族対応が基本であるが、困難な場合は職員が同行している	利用前にかかりつけ医の受診について希望を聞いている。家族に受診の付き添いを依頼し、職員は家族から受診結果を聞いている。協力医療機関の内科と歯科の往診がある。緊急時には主治医に直接連絡を取り、指示を仰ぐこととなっている。服薬についても誤薬、飲み残しが無いよう職員が連携してチェックを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との医療連携体制を確保している。日常の健康管理や状態の変化の報告をし、それに応じた処置や対応をしている。時々状況に応じた相談等を行い受診などの支援も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーと連絡をとり、現在の様子や退院時期などを相談している。ご家族様と一緒に病院に出向き医師等からの説明を聞き、退院後の対応について検討できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成しており、利用開始時に説明をしている。また状況に応じて、何度もご家族と関係スタッフとの話し合いの場ももっている	事業所は利用開始前に本人・家族に重度化した際の意思確認を行っている。状況に変化があった場合、看取りの指針について説明し、同意書を得ることとしている。また、緊急時の連絡網を作成したり、年1回、看取りに関する研修を実施する等、事業所内での体制も整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成しており、各ユニットに掲載をしている。併設の看護師とも連携をし、予想される症状に対し、全職員が対応できるように訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	部分訓練を含め月に1度の消防訓練を行っている。年間2回の総合訓練には消防署員、又近辺の方にも声をおかけし参加を呼び掛けている。毎月15日を防災の日とし、チェックリストを元に機器類の点検も行っている。	毎月の自主訓練の他、年2回消防署立会いの下、総合訓練を実施している。総合訓練時には、近隣住民にポスティングで参加を呼びかけており、消防団の協力がある。自治会の話合いの中から、事業所の非常ベルがどの程度聞こえるのか、実際に試している。大雨の際の避難場所は母体病院となっており、備蓄品も確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員に守秘義務の誓約書を提出してもらっている。個人情報の書類には鍵をかけ保管している。言葉かけや対応が雑な時には職員間で注意し合うようにしている。	職員の守秘義務は徹底している。利用者の個人情報に関する書面は事務所で保管し、写真使用時の同意書を得ている。トイレ支援時に、利用者が不快に感じないように、迅速に支援するよう努めている。また同性介助にも対応している。利用者への声の掛け方や居室への入り方など、尊厳を重視した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話より自己決定ができるような声のかけ方、対応を行っている。表現が難しい方には表情や仕草を確認しながら汲み取るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務を優先するのではなく、これまでのライフスタイルを尊重した日課を提供できるよう努めている。その日の気分や体調を見ながらその人のペースを希望に添った生活を支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や行事には化粧をしたり、服装を選んで頂いている。整髪に関しては月に一回、美容師が来設している。パーマ等に関しては美容室までお連れしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を楽しんで頂く為に季節に合った食材でお料理を提供している。盛り付けやお皿洗いを手伝ってもらったり、おやつ作りを一緒に楽しんでいる	併設の厨房職員が、旬の食材を用いた献立を提供している。利用者の要望などは職員が調理担当に伝えている。各ユニットで、咀嚼に合わせた盛付けなど細かに対応している。菜園の野菜を使用し、話題に役立てている。流しそうめんや焼き芋などイベントの食事会や季節行事、誕生会などさまざまな場面で、食事を楽しむ工夫がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は記録に残しており、必要に応じて水分量もチェックしている。食事形態に関してもその方に合った形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が声かけし、自分でできる方にはしてもらっている。また、できない方に対しては職員が口腔ケアを行っているが、抵抗が強い方もおられるので、月に二回歯科Drに往診してもらい口腔洗浄に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使い、各人の排泄間隔を把握できるよう努めている。またその方の合図や仕草を見逃さないようにして誘導を行っている。便の確認ができないとき時がある。	ホームではトイレでの座位排泄を支援している。状況に応じポータブルトイレ使用や排泄を支援目標に取り入れることもある。排泄表を作成し、利用者の排泄状況を把握し、時間や仕草を見て誘導することで、失禁の減少や心地よく排泄が出来る利用者が増えている。リハビリパンツから布パンツ使用など軽減事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や体操などして体を動かしてはもらっているが毎食の緩下剤で排便コントロールをし、調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴する前には必ずその方の体調を伺い、気分が乗らない時には無理強いをせず時間を置いたり、他の職員が声かけをするなど対応している。また、時々ではあるが大浴場にもお連れし気分転換を図っている	入浴準備は毎日している。日に3、4人の入浴は、ゆっくり湯船に入れるように支援している。個浴が困難な場合は、週2回デイサービスのリフト浴を使用することも可能である。拒否時は無理強いはしない。柚子湯や菖蒲湯、好みの湯温に合わせている。入浴が、リラックスできる時間となり、会話も弾んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活リズムを把握し、起床、就寝の支援を行っている。又、日中は体調等見ながらレクリエーションをし身体を動かし昼夜逆転が起こらないように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明書を個人のファイルに保管し薬の作用、副作用がわかるようにしている。変化があった場合にはすぐに医師に報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや、細かい作業が得意な人だったり過去の生活履歴と現状できることをしっかりと把握し、お手伝いしてもらっている。施設の周りを職員と一緒に散歩し季節感を味わい気分転換などを支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日にはドライブや買い物に行っている。帰宅願望にも家族と連絡を取り都合がいい日程を決めて外出支援を行っている。、地域の行事にもあらかじめ日程を確認し参加できるように支援を行っている。	毎月利用者と認知症カフェに参加したり、季節の良い日は周辺を散歩しており、車椅子利用者も同様に支援している。菜園や花壇、魚釣りなど希望や好みに出来る限り対応している。個別に気分転換のドライブや買い物にも出掛けている。中庭や散歩時におやつを食べたり、花見や季節毎の遠方ドライブなどみんなで外出を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々での金銭管理は紛失等があり難しく、事業所にて管理させて頂いている。週に2回程買い物時間を設けているが購入したいと話される方に関しては事前に財布をお渡しし、ご自分で支払いをして頂けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状況に応じて、電話して頂いたり、手紙等で連絡できるようにしている。正月には年賀状を書いて頂いたりしながら支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が過ごして頂くリビングには造花等や季節感が楽しめる様な飾り付けを行っている。廊下にも行事の時のお写真や展示物を飾り工夫をしている。	リビングから海を囲む景色が見渡せ、利用者は好きな場所で思い思いに過ごしている。カレンダーや季節を感じられる飾り付けがあり、利用者の作品も展示している。職員が毎朝清掃や換気を行っている。また、感染症対策として各ユニットの玄関口に次亜塩素酸を噴霧している。健康管理の徹底された快適な空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファと置き、それぞれ談話したり作業をしてもらったりと、好きな場所で思い思いに過ごせるように工夫している。外を眺める際は椅子を移動して見えやすい場所を提供したりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が今まで使ってきたもの、愛用した物などを持ってきて頂き、居心地よく生活していただけるよう工夫している。また、安全面や過ごし易さを考慮して環境作りを行っている	布団や衣類、時計や書籍、三味線等本人が愛用している物の持ち込みは自由で、居心地よく過ごせるよう工夫し、個性的な居室となっている。居室担当職員が家族と相談し、衣替え等は本人・家族が一緒に行っている。持込みの少ない利用者には、事業所から提供している。誰もが居心地よく、寛げる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手摺を設置しており安全に歩行できる。各部屋の前にはその方の部屋だとわかるように表札を設置している。また、トイレや浴室にも目印をつけわかりやすいようにしてある		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100124		
法人名	有限会社トモメディカルサービス		
事業所名	むつみの森 グループホームすみれ 3F ビオラ		
所在地	長崎県長崎市長浦町2584番地		
自己評価作成日	平成27年11月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲が山と海に囲まれており眺望が良く、車の往来も少ない場所にあり落ち着いた生活を送れる環境にあります。入居者の要望をできる限り叶える為の外出支援に力を入れております。特に、施設の理念の1つでもある、「地域行事への参加」として、自治会に加入しており合同での夏祭りの開催や事業所へお誘いし発表の場としていただき交流を図っております。又、本人様の地元地域へのサロンへの参加を支援したり、保育園・小学校との交流を深めることで地域に密着した開かれた事業所を目指しております。医療機関が設立した、事業所でもあり医療面での連携も図っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との関係性を含めた5つの理念を作成して掲示しており、毎朝朝礼時に出勤職員全員で復唱して一人一人の意識づけ、共有がなされている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に加入し、会合の場としても使用してもらったりしている。また、行事の手伝い・準備などにもご近所の方が来て下さっている。また、入居者様が地域の清掃活動に参加して頂き、地区の一員として活動して頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの資格を持つ職員が認知症サポーター養成講座を開催し、地域住民の認知症に対する正しい知識を持って頂く啓発活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月毎に年間6回の開催をしている。ご家族代表・自治会長や民生委員・認知症サポーターリーダー・小学校の先生や警察官にも参加をお願いしている。皆様からのご意見をサービスにつなげられるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の受け入れの他に、運営推進会議に行政側の方も呼び出して、サービス状況の報告等を行っている。また、グループホーム連絡協議会の研修においても、地域包括支援センターと合同で企画研修を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間の施設内勉強会として、身体拘束の内容を盛り込んでいることや、外部研修を通じて全職員が正しい理解を持てるよう努めている。玄関の施錠に限っては夜間のみ防犯上の理由で行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内勉強会や外部研修を通して、日々のケアを振り返る機会を設けている。職員同士が気付きあいお互いに注意し合えるような環境になってきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者様もいる。勉強会等で権利擁護について触れる機会もあるが、活用までは至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時には疑問点の有無についてお聞きするようにしている。内容に改定があった場合は、家族会を開催し説明を行ったり、欠席者には文書等を郵送し説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関に意見・要望箱を設けているが、活用はされていない。契約時には行政にも相談窓口があることを伝えている。また、運営推進会議にてご家族様より頂いたご意見は改善できるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアリーダーよりあがってくる意見や要望に関して、必要に応じ会議を開き検討の機会を作っている。申し出により資格の取得支援も行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務態度や各種研修への参加意欲、資格の取得状況などによって、職員への評価が正当に行えるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度開催の施設内勉強会や、外部研修の案内を事業所内に回覧板として全職員が目を通せるようにしている。認知症介護実践者研修には毎年参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており、研修等により同業者との交流する機会やネットワーク作りを行えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームで生活していく上で、不安に思っている事や、どのような生活を望んでいるかを十分に聴き、要望等に耳を傾けて本人への理解の姿勢を示し努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの生活をする上で家族が不安に思っている事や、職員に対する希望や本人がどのような生活を送って欲しいかを十分に聴き、ケアプランなどに反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先する課題の設定を目指す事を伝える一方、本人と家族が必要としている支援を見極め、グループホームの生活の特徴を説明し、他のサービス利用も含めて対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の営みの中で、本人が自ら実践する気持ちが持てる様な作業を見つける支援をし、共に行っている。身体が不自由な方に対しては、気持ちが充実できるよう働きかけを多くし、意思疎通が出来るよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日々の様子をお伝えしたり、季刊発行によるお便りを発行して、近況報告をしている。また電話等による連絡も行っている。行事には家族様にも参加頂いたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状を書いたり、時には電話などをして頂いたりしている。本人様の地元地域のサロン等にも出席をしており関係が途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	年間行事を設定し毎月行事を行っている。物作りの作業を職員と一緒にしたり、レクリエーションの中で利用者様同士の交流のきっかけ作りがスムーズになるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居中の写真をアルバムにしてお渡ししている。契約終了後にも、その後のご様子を伺うためにお電話するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向などどのような暮らしがしたいかをお聞きし、把握できるよう努めている。自分の思いを伝えることが困難な方には、表情やなにげない言葉から推測し予測を立て満足してもらえるよう努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴やこれまでの暮らし方、生活環境、以前使われておられたサービス利用の事等をご家族に聞き取りを行い把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの毎日の生活から伺える動作や、心身状態の変化、声かけに対する反応など常に意識を持って観察をするようにしている。変化があれば、職員同士で話し合いや伝達ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア実践の結果を担当者が聞き取りを行いまとめ、新しい課題や継続の有無を判断して、御家族様にも今後の意向などのお聞きして出来た原案にて、担当者会議を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施状況が分かるようにケース記録を改良している。本人の状態や話された言葉、日中の様子などを記入し情報の共有ができるよう努めている。それをもとに介護計画の作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	集団での外出等の計画だけでなく、一人ひとりのニーズに沿ったイベントが行えるよう企画している。その際家族の状況により出来ない部分を補えるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校の運動会の見物や敬老会など地域との交流を行っている。施設主催の夏祭りには広告など張り紙をし、地域への感謝をこめて出し物や出店など楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と御家族の意向を大切に、病状によっては、家族の希望する病院への受診や適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との医療連携体制を確保している。日常の健康管理や状態の変化の報告をし、それに応じた処置や対応をしている。時々状況に応じた相談等を行い受診などの支援もっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーと連絡をとり、現在の様子や退院時期などを相談している。ご家族様と一緒に病院に出向き医師等からの説明を聞き、退院後の対応について検討できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成しており、利用開始時に説明をしている。また状況に応じて、何度もご家族と関係スタッフとの話し合いの場もっている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成しており、各ユニットに掲載をしている。併設の看護師とも連携をし、予想される症状に対し、全職員が対応できるように訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	部分訓練を含め月に1度の消防訓練を行っている。年間2回の総合訓練には消防署員及び近辺の方に参加を呼び掛けている。毎月15日を防災の日とし、チェックリストを元に機器類の点検も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し個人によって声の大きさを変えたり、その人にあった声掛けが行えるよう努めている。また、プライドやプライバシーを十分に配慮した対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で利用者のやりたい事や思いをお聞きし、希望にそえるよう支援を行っている。上手く表現できない方には、表情や仕草などを観察し出来る限り気持ちにそえるよう、常に意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先するのではなく、利用者様のその日の体調や気分をみながら過ごし方を利用者のペースに合わせて支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替の時は好みの服を一緒に選んだり、入浴後など女性の方には化粧水などの提供を行っている。毎月美容師が来設しカットをしたり、時には直接美容室に出掛けたりなど、おしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には食事前後のテーブル拭きをして頂いている。食事中には味や献立の感想の話しをしながら、楽しい雰囲気作りを心掛けている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量やイン・アウト表などを使用し把握できるようにしている。嚥下状態に注意しとろみ剤を使用やミキサー食を提供など、利用者にあった食事形態に随時調整して栄養バランスや量の確保などに努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者に合わせた口腔ケアを実施している。できない方には職員が行い、確認して清潔を保てるよう努めている。就寝前には義歯を洗浄剤につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し定時的な排泄誘導や、訴えにてトイレ誘導を行っている。訴えない方に対しては、自尊心を傷つけないように声掛けをし、気持ちよく排泄して頂けるように工夫をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品などの摂取を毎日取り入れたり、水分をなるべく多目にとって頂くようにはしているが、現状の対応として緩下剤などで調節する事が多い。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	残存機能を把握し個々に沿った支援を行うよう努めている。拒否がある方には時間をおいたり声かけの工夫をしている。身体が不自由な方には、リフト浴などの支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣やその時の状況に応じてベットに横になって、身体を休めて頂いている。夜間帯の安眠の為に、日中は作業やレクリエーション、談話などにて昼夜逆転を防げるようにと努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	熱計表や業務日誌など毎日確認を行い、薬などの変更があれば副作用に注意をし、変化がみられた時はすぐに医師へ報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	絵描きや貼り絵など好きな事をして頂き、張り合いや楽しみのある生活を送る事が出来るよう支援している。洗濯たみのお手伝いをして頂いたりと生活歴などを考慮した支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	随時職員が計画を立て実行している状況である。外出希望があれば希望に沿えるよう支援している。定期的な買い物日には声かけを行い同行して頂き外出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々での金銭管理は紛失等があり難しく、事業所にて管理させて頂いている。週に2回程買い物時間を設けているが購入したいと話される方に事前に財布をお渡しし、ご自分で支払いをして頂くように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状況に応じて、電話して頂いたり、手紙等で連絡できるようにしている。正月には年賀状を書いて頂いたりしながら支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事等などの写真を掲示したり、各居室の入り口には季節ごとに飾りつけを行っている。車椅子の方を考慮した配置なども考えソファやテーブルの位置などにも注意をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様一人ひとりの事を考え、ソファや机など座順に配慮している。気分良く過ごせるよう、テレビを観たり窓から外の景色を眺めてもらうなどの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた家具や家族との思い出の品などを、家族と相談し持ち込みをして頂き安心して生活が送れるように心がけを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には入り口ドア付近に利用者の表札を作り自分の部屋であると理解できるように設置している。また、トイレと理解してもらう為に表示をしている。フロア内で過ごされる事が多いので障害物がないか安全確保に注意している		